

県産品、東京でPR

販路拡大へ島フェスタ

【東京】県産品の販路拡大やマーケティング、プレゼンテーションの技術向上を支援する事業「ちむどんどん琉球島フェスタ」が10月29日から3日間、江東区の「南砂町ショッピングセンターSUN AMO」で開かれた。写真。県内の食品加工業者や菓子製造業のほか、今帰仁村、恩納村の商工会など23社・団体が出展。自社製品や地域の物産に対する買い物の反応や要望を受け、首都圏への進出拡大の可能性を探った。

県内企業の販路拡大や人材育成を支援するため、1月に



発足したNPO「沖縄グローバルインキュベーション」(那覇市、喜友名光彦理事長)が主催。離島や遠隔地の企業・団体の参加を支援し、首都圏での販売活動や商品開発に活用することを目指した。

県産野菜、果物が展示され、月桃やアロエなどを利用した化粧品、今帰仁のクワンソウを使ったお茶が並んだ。塩せんべいやちゃんすこうなどが駄菓子コーナーで紹介され、人気を呼んでいた。

会場では、観光と特産品の

アンケートが実施され、沖縄観光の経験や魅力、商品の認知度、評価などを尋ねた。総計635枚の回答を分析、評価し、今後のマーケティング調査に役立てるとしている。

NPOに参加する岡田純氏(ダイレクトプランナーズ代表取締役)は「本土市場の販路拡大には、しっかりと市場調査とノウハウがなければ成功しない。やる気ある企業・団体を応援したい」とした。今帰仁村商工会経営指導員の豊里友一朗さんは「お客様の反応などを持ち帰り、企業と連携して役立てたい」と述べた。